

(1) 答申中間案に対する意見

		意見聴取会における意見等			パブリックコメントにおける意見等		
		個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	意見等に対する審議会の考え方(案)	個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	意見等に対する審議会の考え方(案)
総論		<ul style="list-style-type: none"> ●全体的に抽象的な表現が多いので、できるだけ具体的な表現を検討して欲しい。 ●全体的に具体性に乏しく、もっと具体的な内容にすべきではないか。 ●中間案は何を言おうとしているかわからない。 	全体的に抽象的表現が多く、もっと具体的内容を記載すべきである。	本答申案は、今後10年間の県立高校教育改革の方向性と高校再編の方針を示すものとして作成しました。具体的な取組内容については、「新将来構想」に基づく「実施計画」に記載されるものと考えています。	<ul style="list-style-type: none"> ●構想の内容がはっきりしていない。 ●地域の今後高校配置がわかるような構想の具体化が必要である。 ●全体的に具体性をもった記述をすべき。 ●全体的に抽象的で分かりにくい。 	全体的に抽象的表現が多く、もっと具体的内容を記載すべきである。	本答申案は、今後10年間の県立高校教育改革の方向性と高校再編の方針を示すものとして作成しました。具体的な取組内容については、「新将来構想」に基づく「実施計画」に記載されるものと考えています。
第1章 新たな県立高校将来構想の策定	1 本県の高校教育改革の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ●県民意識を構想に反映させようとする点を評価する。 	県民意識の反映を評価する。(感想)		<ul style="list-style-type: none"> ●取り組み状況に関する記述が不十分であり、新しい将来構想に対する明確な問題提起や課題が見えない。 ●現行の構想の成果と課題が良くわからない。 	これまでの高校教育改革の取組に対する成果と課題が不明瞭である。	現構想の総括については、県教委が平成13年度からこれまでに現構想の4つの柱に基づき実践された各種の取組・事業の進捗状況について、自己評価を行った結果を審議会資料として提出を受け、審議をおこないました。
		<ul style="list-style-type: none"> ●県民意識調査では、「どちらともいえない」や「わからない」の回答が多く、「概ね肯定的に評価された」との表現でよいのか。 ●全県一学区は仙台に生徒が集中し競争が激しくなるが、中間案の「おおむね大丈夫」という記載で良いのか。 	県民意識調査では、「どちらともいえない」や「わからない」の回答が多く、「おおむね肯定的に評価された」との表現でよいのか。	県民意識調査で現将来構想期間中における高校教育改革の取組に関する質問について、評価を表明した回答では、全ての質問において肯定的な回答が否定的な回答を上回っていることから、「おおむね肯定的に評価された」と判断したのですが、一部に「どちらともいえない」、「わからない」と評価を保留した回答が多い質問もありましたので、誤解を与えないような記載に修正いたします。	<ul style="list-style-type: none"> ●県民意識調査結果と、別学校の高校生の一律共学化に関する意見に食い違いがあるので、高校教育改革の各取組におおむね肯定的という解釈はおかしい。 ●県民意識調査結果と、別学校の高校生の一律共学化に関する意見に食い違いがあるので、高校教育改革の各取組におおむね肯定的という解釈はおかしい。 ●県民意識調査の結果をおおむね肯定的に評価された結論付けているが、肯定的と読めるか疑問である。 ●県民意識調査で、これまでの県立高校改革の取組において、「どちらともいえない」「わからない」という回答の多い施策は、評価されているとは言えない。 ●県民意識調査の結果が現役高校生の意見と乖離している可能性もある。 ●答申の中で全体としてはおおむね肯定的に評価された結果とひとくくりした答申は大きな誤りであり、答申から削除すべき。(少なくとも修正が必要！) ●県民意識調査の結果「全体としてはおおむね肯定的に評価」とあるが、これは過大評価ではないか？ ●高校教育に関する県民意識調査結果から「概ね肯定的に評価された」とする考え方はおかしい。 ●高校教育に関する県民意識調査結果から「概ね肯定的に評価された」とするのは詭弁であり、少なくとも「一律共学化を除き」と挿入すべき。 ●概ね肯定的との表現は、一般県民意識と乖離している。 	一律共学化に関し県民意識調査の結果をおおむね肯定的に評価された結論付けているのは間違いではないか。	県民意識調査で現将来構想期間中における高校教育改革の取組に関する質問について、評価を表明した回答では、全ての質問において肯定的な回答が否定的な回答を上回っていることから、「おおむね肯定的に評価された」と判断したのですが、一部に「どちらともいえない」、「わからない」と評価を保留した回答が多い質問もありましたので、誤解を与えないような記載に修正いたします。
	2 新たな県立高校将来構想の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ●今回の構想は、学校をどう潰すかだけの内容である。 ●郡部の高校を統廃合するための内容に見える。 ●家庭の経済力にも踏み込んだ高校教育改革を考えるべき。 ●経済的な支援について、構想に盛り込むべき。 ●教育とは規範を教えることであることを踏まえた構想を作るべき。 ●高校教育のビジョンを示した上で、義務教育・地域・家庭等への提言もして欲しい。 ●学校教育における県立高校としての目的・目標が見えない。 	構想(中間案)は郡部の高校の統廃合のためのもに見える。	中間案では、県立高校の再編だけでなく、今後の県立高校における人づくりの方向と、そのための高校教育改革の取組の方向性、学科等の在り方を示すとともに、適切な進行管理の在り方にも触れております。	<ul style="list-style-type: none"> ●少子化だから再編・学級減ではなく、もっと核心部分にも答申はふれるべき。 ●答申に、高校を出てからのイメージ(宮城の将来、県づくり、地域づくり)も必要でないか。国の文章を並べて少子化だから再編という答申である。 	高校教育・将来構想の位置づけ・内容について修正すべき。	中間案では、県立高校の再編だけでなく、今後の県立高校における人づくりの方向と、そのための高校教育改革の取組の方向性、学科等の在り方を示すとともに、適切な進行管理の在り方にも触れております。
			家庭への経済的支援について構想に盛り込むべき。	経済的支援の在り方については、社会保障全体の枠組みの問題と考えます。			
			高校教育のビジョンを示した上で、県立高校の教育目標を明示すべき。	中間案の第3章に今後の県立高校教育の人づくりの方向性とその実現に向けた取組の方向性について示したところです。	<ul style="list-style-type: none"> ●「現将来構想を引き継ぐものとして」となっている部分を「現将来構想に代るものとして」と改めるべき。 ●現構想を正当化する「現将来構想を引く継ぐものとして」の文言を削除又は修正すべき。 ●現構想と新構想の関連づけを行って欲しい。 ●現将来構想は検討課題が多いので、現将来構想を「引く継ぐもの」ではなく、現将来構想に「代わるもの」と訂正すべき。 ●新将来構想は、現将来構想を「引く継ぐもの」ではなく、現将来構想に「代わるもの」と訂正すべき。 	新構想は、現構想を「引き継ぐもの」ではなく、「代わるもの」と修正すべき。	新将来構想については、現将来構想に基づく取組を土台にした構想という趣旨が分かるように修正しました。
					<ul style="list-style-type: none"> ●県立高等学校の概念から特別支援学校の高等部や特別支援高等学園を除外するのであれば、そのことを予め将来構想審議会に諮るべき。 	特別支援学校高等部等を当構想から除外するのであれば、予め将来構想審議会に諮るべき。	特別支援学校については、学校教育法における高等学校ではないため、当審議会の所掌案件ではないと考えます。

		意見聴取会における意見等			パブリックコメントにおける意見等		
		個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	意見等に対する審議会の考え方(案)	個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	意見等に対する審議会の考え方(案)
第2章 本県の高校教育を巡る現状と課題	1 社会経済環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> ●教育改革の変革の理由に、「経済」という表現を使用することはふさわしくない。同様に「人材」という言葉も避けるべき。 ●「生きる力」「知識基盤社会」などの文言は、一般県民にはわかりづらい。 ●「知識基盤社会」だけでなく、ものづくりやスポーツ、芸術などの「情操教育」を基盤としてもいいのではないか。 ●「離職率」の高さは、若年層の目的意識の低下だけでなく、人間関係構築力やコミュニケーション力にも問題がある。 ●離職率が高いのは、労基法違反の企業が多いからである。 ●「現状と課題」で、フリーターやニートのことが書いているが、我が国の産業構造に問題があり、まずその改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「知識基盤社会」といった言葉はわかりづらい。また教育を語るべき、「経済」という言葉は好ましくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●本文では、「知識基盤社会」について説明をつけております。また、「経済」とは、生産や消費等の総体を示す一般的な言葉であり、こうした実態を踏まえて高校教育を考える必要があると認識しております。 	<ul style="list-style-type: none"> ●若年層の目的意識の希薄化に関する要因分析は、一方的な見方である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●若年層の目的意識の希薄化に関する要因分析は、一方的な見方である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会情勢に対しての分析はそれぞれの代表的な要因に言及しており、状況分析が一方的にならないように配慮しております。
	2 県立高校の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ●大学進学率の向上については、過熱化した状況を見据えてから検討すべき。 ●大学進学率の向上は、高校教育の必要条件でも十分条件でもない。 ●大学進学率は、家庭の経済的な問題と近くに大学があるかないかの問題であり、それを解決しないで大学進学率を言うのは無責任である。 ●大学進学率の向上だけを強調しなくとも良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●大学進学率の向上を構想に掲げるのは問題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後ますます知識や技術が重要性をますます社会にあっては、より高度な知識や技能を修得できる大学等での学習が重要になると考えております。中間案では「大学進学率の向上」を例示しましたが、「大学等高等教育機関への進学的重要性」と表現を修正いたします。 	<ul style="list-style-type: none"> ●フリーターが多いと数字を示しているが(p23)、何故多いのか考察が示されるべき。 ●「家庭の教育力の低下」の原因の一つに産業構造の変化に伴う長時間労働や単身赴任の増加等があるが、答申案ではこの分析、それに対する対策がない。 ●分権型社会への移行という現状認識は間違いで、問題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現状に対する分析・認識に誤りがあるので修正すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ●国の教育施策方針との関連性が不明確である。
第3章 今後の県立高校教育の在り方	1 本県高校教育における人づくりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●地域に根ざした生徒達を育てるために、人づくりの方向性に、「地域を愛する」「地域を守る」といった言葉を入れてはどうか。 ●魂や自律心の育成が高校3年でできるのか疑問である。進路を切り開く力、人と関わる力は、誰が育成できるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域に根ざした人材の育成のため、「地域を愛する」「地域を守る」といった言葉を入れてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●人材育成については、「地域」という視点も重要であると思いますが、一方で、日本、世界という視点を持った人材も求められていることから、「社会の変化に主体的に対応していく力」として示したところです。また、自律心、進路を切り開く力は、学校教育の充実とともに、地域との連携により育成していくものとして記載しております。 	<ul style="list-style-type: none"> ●郷土愛を地域リーダーの育成と結びつけて記述しているのは特定のエリートを育てることになるため削除すべき。 ●男女共学化に伴う当該高校の伝統・文化の維持に向けた対応策を新将来構想で具体的に示すべき。 ●新教育基本法に謳われている「伝統と文化の尊重」を新将来構想にも明記すべき。 ●将来構想に「伝統文化の尊重」を教育施策として具体化してほしい。 ●答申の中に伝統と文化を尊重する教育を推進して行く教育姿勢を文言として盛り込むべき。 ●教育基本法に謳われている「伝統と文化の尊重」について、新将来構想でどのように具現化するのかが示すべき。 ●中間案では、現将来構想に基づく「男女共学化」に潜む「伝統と文化の破壊」の側面を取り上げていないが、教育基本法に「伝統と文化の尊重」が謳われていることから、新将来構想に「伝統と文化の尊重」を明記すべき。 ●教育基本法で示された「伝統と文化の尊重」から、一律共学化する必要はない。 ●教育基本法で謳っている伝統と文化の尊重について、具体的に示すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●郷土愛と地域リーダーの育成を結びつけることは、特定のエリート養成になるので削除すべき。 ●新教育基本法に謳われている「伝統と文化の尊重」を新将来構想にも明記すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域に根付いたリーダー的な人材育成の必要性を示したところです。 ●教育基本法の改正において、国際化の進展の中で、郷土の歴史・文化の理解の必要性が示されておりますが、これは各教科等の指導の中で行われるものと考えております。
		<ul style="list-style-type: none"> ●人と関わる力の育成に共感する。 ●人と関わる力の育成は、小中高を通して行うべき課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●人と関わる力の育成は重要であり、小中高を通して行うべき課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●人と関わる力の育成は、当然高校だけでなく、小中学校で培われるコミュニケーション能力や勤労を重んじる態度の育成が必要と考えていますが、ここでは高校教育という観点で記載しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●心身の発達が目覚ましく、友人との関わり等から学ぶことの多い時期の人間教育とはどうあるべきかの視点・記述・分析がほとんどない。 ●人材育成に係る特活面の効果の記述が欠落しているのではないか。 ●「他者との関わりの中で共に生きていくための能力」を育てることになるので、ここをもっと膨らませて考える必要がある。 ●社会に出てからの人と関わる力を育むことは、大変重要である。しかし、(2)の中に(1)主体的に生き抜く力と重複する文言が入り分りにくい。 ●「人づくりの方向性」とそれに向けた4つの取組の必然性が不明瞭である。 ●高齢者や小学生等と接する機会をつくるとともに、社会を意識させる教育を行うべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●人づくりの方向性、特に人と関わる力の育成は重要であり、もっと詳細に説明すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●人づくりの方向性並びに人と関わる力の重要性を踏まえ、新しい構想では、構想全体で実現すべき価値として記述しています。

		意見聴取会における意見等			パブリックコメントにおける意見等		
		個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	意見等に対する審議会の考え方(案)	個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	意見等に対する審議会の考え方(案)
2 高校教育改革の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 中高で学んできた英語は使えるものではなかったため、使える英語を学べる環境を作りたい。 ● 高校に合格させたからには、ギリギリで入った生徒にとって分かる授業を展開して欲しい。 ● きめ細かな指導を高校でも実践して欲しい。 ● 勉強ができない子どもへの対応についての記載がない。 ● 生きる力や表現力などを引き出す授業を行って欲しい。 ● 高齢者と実際に触れ合うシステムを学校に導入することで、人と関わる力の育成ができるのではないか。 ● 「学校外の教育資源の活用」は、「教育環境の充実」にまとめた方が落ちつきが良い。 	<p>進路実現に必要な知識・技能の修得に向けて、分かる授業の展開等、きめ細かな指導を行うべき。</p>	<p>中間案に記載したとおり、全ての生徒が進路実現に必要な学力を身に付けられるような取組を展開することが重要だと認識しております。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 宮城は全国に比べ学力が低いことから、高校再編の過程で、学力向上に向けた学校整備を図るべき。 ● 世界的に否定されている習熟度別指導を取り入れる考えが理解できない。 ● 「中途退学者」を少なくする対策は検討したのか。進路選択を失敗した生徒や退学者のほうが非常に多い。「魅力ある学校」「楽しい学校」という考え方が欠如している。 	<p>学力向上に向けた授業改善をさらに図るべき。</p> <p>習熟度別指導を取り入れる考えが理解できない。</p> <p>「魅力ある学校」「楽しい学校」という考え方が欠如している。</p>	<p>中間案に記載したとおり、全ての生徒が進路実現に必要な学力を身に付けられるような取組を展開することが重要だと認識しております。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 県全体の職場体験学習の推進のため、中高連携したキャリア教育の充実という項目を起すべき。 ● 結果だけ教えるのではなく、その過程、中身を教えることが重要である。 ● 進路を切り開くのは、自らの想いである。 ● 生徒のやる気をとことん伸ばす必要がある。 ● なぜ学ぶのかをガイダンスし、学びの意欲を引き出す教育が重要である。 ● 目的意識を持たせる教育を展開すべき。 ● 学校で何を学ぶのか、なぜ学校があるのかを理解させることが、まず必要である。 ● キャリア教育を進めるには、校外に出て実践させるべき。 ● 朝8時半には学校も会社も始まるという、社会のルールを教えるべき。 ● 世の中競争社会であることが分からない人間は企業では不要なので、教育して欲しい。 ● 「変化に対応できる基本姿勢の育成」は、学校でどのようにして育成するのか。 ● 「変化に対応できる基本姿勢の育成」は、キャリア教育でなく学力向上に整理すべき。 ● 「地域のニーズに応える高校づくりの推進」は重要であるが、どのように地域と連携すべきなのか難しい問題である。 ● 「地域のニーズに応える高校づくり」とは、具体的にどのような学科・学校が分かりにくい。 ● 全県一学区になっても地域の人が地域の学校という心を持ち続けてもらえるようにして欲しい。 ● 全県一学区は、今まで以上に学校の特色化と情報発信が必要となるだけでなく、PTA活動の停滞や生徒指導の広域化が懸念される。 ● 地域に根ざした高校づくりをして欲しい。 ● 地域貢献する高校でなければ、地域にいらぬ。地域になくはならない高校として欲しい。 ● 高校の教育課程に地域貢献活動を位置付けるなど、地域における存在価値を高めることが重要ではないか。 ● 高校生の地域貢献は大切である。 ● 中高及び高大の交流を充実させるべき。 ● 「地域のニーズに応える高校づくり」と「開かれた高校づくり」は、「学校教育環境」に整理すべき。 ● 公立高校の情報発信が少ない。 ● 全県一学区を踏まえ、各学校は特色を出す企業努力が必要である。 ● 地域に開かれた学校づくりをして欲しい。 	<p>キャリア教育の充実などにより、目的意識をもたせ、学ぶ意欲を引き出す教育が重要である。</p>	<p>自らの在り方・生き方を考えさせるキャリア教育を充実させることにより、学ぶ意欲や姿勢を育成していくことが重要であると考えております。</p> <p>なお、発達段階に応じたキャリア教育が重要であり、そのため中高・高大連携しながら取り組んでいく必要があると思いますが、本構想は県立高校教育の在り方の観点から記載しております。</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 「地域に根ざした高校づくりの推進」は重要であるが、どのように地域と連携すべきなのか難しい問題である。 ● 「地域のニーズに応える高校づくり」とは、具体的にどのような学科・学校が分かりにくい。 ● 全県一学区になっても地域の人が地域の学校という心を持ち続けてもらえるようにして欲しい。 ● 全県一学区は、今まで以上に学校の特色化と情報発信が必要となるだけでなく、PTA活動の停滞や生徒指導の広域化が懸念される。 ● 地域に根ざした高校づくりをして欲しい。 ● 地域貢献する高校でなければ、地域にいらぬ。地域になくはならない高校として欲しい。 ● 高校の教育課程に地域貢献活動を位置付けるなど、地域における存在価値を高めることが重要ではないか。 ● 高校生の地域貢献は大切である。 ● 中高及び高大の交流を充実させるべき。 ● 「地域のニーズに応える高校づくり」と「開かれた高校づくり」は、「学校教育環境」に整理すべき。 ● 公立高校の情報発信が少ない。 ● 全県一学区を踏まえ、各学校は特色を出す企業努力が必要である。 ● 地域に開かれた学校づくりをして欲しい。 	<p>地域に根ざした高校づくりが重要であり、教育課程に地域貢献活動を位置づけたり、中高の交流を充実させるなどして、地域との連携の在り方について具体的に示すべき。</p>	<p>県立高校は、公費で運営されていることも含め、地域とのつながりの中で重要な役割を担うべきだと考えます。具体的な連携の在り方については、実施計画策定の中で検討していくものと考えています。</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 「地域のニーズに応える高校づくり」と「開かれた高校づくり」は、「学校教育環境」に整理すべき。 ● 公立高校の情報発信が少ない。 ● 全県一学区を踏まえ、各学校は特色を出す企業努力が必要である。 ● 地域に開かれた学校づくりをして欲しい。 	<p>情報発信を充実させるなどして、地域に開かれた学校づくりをすべき。</p>	<p>地域とともに生きる高校づくりを進めるためにも、これまで以上に情報発信していくことが重要になることから、開かれた高校づくりの取組として文章を追加いたします。</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員のレベル向上のためのソフト改革について具体的に明示すべき。 ● 教員の資質向上について、もっと大きく取り上げるべき。 ● 指導力不足の教員が見受けられる。 ● キャリア教育が不十分である。きちんとしたキャリア教育のため、教員に民間企業を経験させるなど、指導体験を確立すべき。 ● ベテラン教員に多様な活動に取り組んでもらう必要がある。 ● 教育のソフト面の記述が気になる。生徒の学習への動機づけをするのが教師の役割であり、そこに触れるべきではないか。 	<p>教員の資質向上は非常に重要であることから、具体的に方策を示すべき。</p>	<p>中間案にも記載しているように、教員の資質向上が教育改革の大きな鍵の一つと考えております。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学力向上のため、教員の質を向上させて欲しい。 ● 教員研修については具体的にどのような研修が行われ、如何なる効果を挙げているのか例示すべき。 	<p>教員の資質向上を図るべき。</p> <p>教員研修の内容と成果を例示すべき。</p>	<p>中間案にも記載しているように、教員の資質向上が教育改革の大きな鍵の一つと考えております。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 会社と同じように学校も経営方針を教員にしっかり伝えるべき。 	<p>学校の経営方針を教員にしっかり伝えるべき。</p>	<p>学校長の責務として、学校の運営方針は全ての教員に示されていると認識しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校は特色と言うが、県教委として現場に権限を委譲するのか。答申に載せて欲しい。例えば授業時数、教科選択、長期休業など現場でできるのか。 	<p>学校が特色をだせるよう、現場に権限を委譲すべき。</p>	<p>中間案では、学校長を中心として、社会変化に速やかに対応していく重要性について示したところであります。</p>	

	意見聴取会における意見等			パブリックコメントにおける意見等		
	個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	意見等に対する審議会の考え方(案)	個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	意見等に対する審議会の考え方(案)
	<ul style="list-style-type: none"> ●少人数学級に触れていないが、触れるべき。 ●知識が重要な時代だからこそ、専門高校から30人の少人数学級を実現させてはどうか。 ●学級定員を40名のままで、統合や学科再編を考える理由が全然わからない。統廃合を前提とした構想はおかしい。 ●30人や35人学級を取り入れるべきである。 ●40人学級にこだわらなくとも良いのではないか。 ●30人や35人学級にすれば、統廃合は避けられる。 ●35人、30人教育で効果があがるなら、将来の投資として検討すべき。 ●統廃合により生まれる財政余力を35人学級の実現にまわして欲しい。 ●少人数指導や地域に根差した教育がしやすいべき地教育について、新構想で検討できないか。 	<p>40人学級にこだわらず、30人や35人などの少人数学級により小規模校の存続を検討すべき。</p>	<p>高等学校の学級編制は、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき40人が標準とされているところであります。そうした中で、宮城県教育委員会では加配制度を有効に活用し、生徒の状況に応じた習熟度や少人数指導等に努めている状況ですが、学級編制の改正については、国の制度によるところが大きいところであると認識しております。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●郡部での1学級35人～30人という対策があれば、いくらか学校の抱える困難さが緩和されると思うが、「地域とはどこか」という疑問は依然として残る。 ●少子化の中で小さい学校だからできるきめの細かい指導をぜひ大事にして、35人学級を実施して欲しい。 ●35人あるいは30人学級として、地域の学級数を減らさない方法で、少子化を乗り切るべき。地域の教育は地域で行うのがベストだという声が多い。 ●少人数学級の実施を県に強く求め、それを想定した構想が必要。 ●統廃合には地域の意見を十分に聞いて欲しいし、学校を存続するとすれば、公教育を守る立場から考え、「30人学級」を選択肢の一つに加えて欲しい。 ●30～35人学級の少人数学級を実現してほしい。 ●1学級の生徒数を小規模校に関しては35人程度にするべき。 ●30人、35人学級などで小規模校の利点を生かし、地域を担う人材を育てる特色ある高校を作るべき。 ●最も効果的に教育できる1学級の生徒数、収容定員を明確にすべき。 ●地方の学校には30人学級を取り入れるなどして教員を多く配置して欲しい。 ●教育環境の充実をお願いしたい。 ●教員の資質の向上より、教材研究などの時間の確保のために、教員定数を改善する必要がある。 	<p>40人学級にこだわらず、30人や35人などの少人数学級により小規模校の存続を検討すべき。</p>	<p>高等学校の学級編制は、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき40人が標準とされているところであります。そうした中で、宮城県教育委員会では加配制度を有効に活用し、生徒の状況に応じた習熟度や少人数指導等に努めている状況ですが、学級編制の改正については、国の制度によるところが大きいところであると認識しております。</p>
				<ul style="list-style-type: none"> ●障害のある、なしに関わらず高校教育を受けたいと希望する子どもたちすべての願いを中心に将来構想を打ち立ててほしい。 ●発達障害などの子どもたちが、進学や就職に向けての支援が受けられるような将来に希望を持てる県立高校をつくるべき。 	<p>障害の有無に関わらず、希望する生徒には高校教育を提供するとともに、発達障害を持つ子どもたちに必要な支援を提供する高校を作るべき。</p>	<p>中間案は、学校教育法における「中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的」とした高等学校の枠組みを前提にして、今後10年間の県立高校の在り方を示しております。なお、多様な生徒の受け入れ態勢の整備の一環として、発達障害を持つ生徒への対応について一部記載しております。</p>
第4章 社会の変化に的確に対応した学科編成・学校配置の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ●「社会の変化に的確に対応」とあるが、社会が変わろうと教育内容、指導内容、学習内容は変わるものではない。 ●社会に通用できる人材を育成できるのが良い学校である。 ●教育は、学校側からの視点ではなく、世の中のニーズで論ずるべき。 ●変化する情勢に対して、柔軟に対応できる人材を育てる学校が必要である。 	<p>社会が変わろうと教育内容、指導内容、学習内容は変わるものではない。</p> <p>社会のニーズに対応し、変化する社会情勢に柔軟に対応できる人材を育成できる学校が必要である。</p>	<p>高校教育においては、基礎的・基本的な知識・技能の修得の上に、それらを活用しながら変化の激しい社会で生き抜いていく力を身につけることが不可欠であることから、そうしたことを踏まえた学校・学科の在り方を考えることが重要だと示したものです。</p>			
1 学科等の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ●地域に即した特徴ある高校を作って欲しい。 ●地域の特色を踏まえた高校づくりを進めて欲しい。 ●進出企業も念頭に入れた高校づくりを考える必要がある。 ●福祉科や環境防災科を設置してはどうか。 ●専門学科に関する記述が少ない。 ●多部制の定時制高校が未設置地区には設置すべき。 ●様々な生徒を受け入れる多部制定時制高校を設置して欲しい。 ●単位制高校、中高一貫校の教育的効果はまだわからない。 ●中高一貫教育は不要である。 ●空き教室があるなら、各地域に中高一貫校を作っても良いのではないか。 ●中高一貫ではなく、小中高一貫を考えるべきである。 ●中高一貫校についての記述が中途半端である。宮城県の併設型中高一貫校や中等教育学校では学力検査をしているが、それが良いのか。 	<p>地域に即した特色ある高校づくりを考えるべき。</p>	<p>各地区の産業構造等を踏まえた学科の配置を検討していくことを記載しております。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●産業構造の変化に対応できるよう、専門教育の充実に向けた予算確保をしてほしい。 ●農業高校の希望者は減少しているが、自然の中で自分を感じ、その中から収穫物を生産する喜びを学習できる農業高校の存在意義は大きいことから、農業科は残すべき。 ●将来、少年院や刑務所を作るのに税金を注ぐより、農業高校は絶対残すべき。農業後継者を目指す生徒も多くなることを忘れていただきたい。 ●総合学科の総括が必要である。 	<p>産業構造の変化に対応できるよう、専門教育の予算を充実させて欲しい。</p> <p>農業高校の存在意義は大きく、残すべきである。</p> <p>総合学科の総括が必要である。</p>	<p>専門教育の展開に当たっては、時代変化を踏まえた教育の重要性について示したところであり、予算の確保は事業の推進の過程で検討する事項と考えます。</p> <p>農業高校の存在意義は十分認識しておりますが、生徒や産業界等のニーズと募集定員との間に乖離もあることなどから、配置を含めた在り方を検討する必要性について示したところです。</p> <p>総合学科については、教育課程上の期待と、実際の課題等を示しております。</p>
		<p>様々な生徒が着実に学ぶことができる多部制定時制高校の存在意義は高く、未設置地区には整備すべき。</p>	<p>中間案では、2部制・多部制定時制高校の未設置地区への設置について検討すべきものと示しております。</p>			
		<p>中高一貫校の教育的効果や現状把握についての記載が中途半端である。</p>	<p>中高一貫校については、現設置校の成果・課題を踏まえた上で検討する必要があると考えます。</p>			

		意見聴取会における意見等			パブリックコメントにおける意見等			
		個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	意見等に対する審議会の考え方(案)	個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	意見等に対する審議会の考え方(案)	
2 学校配置の考え方		<ul style="list-style-type: none"> ●地域の専門学科のあり方として、総合産業高校に向かうべきだと思う。 ●総合産業高校にする際、中途半端な施設・設備にならないか心配である。 	総合産業高校にする際、中途半端な施設・設備にならないか心配である。	総合産業高校の施設・設備については、具体的な設置計画の過程で検討されるものと考えています。	<ul style="list-style-type: none"> ●単位制高校には必要十分な教員配置をしないと失敗する。 ●総合産業高校がどのような高校なのか、詳しい記述が必要である。 	単位制高校には十分な教員配置が必要である。総合産業高校がどのような高校なのか、詳しく記述すべき。	単位制高校については、教員定数の加配措置がなされていると認識しております。専門的な知識・技能の上に、学際的な分野の知識・技能を持った人材ニーズに対応するため、複数の職業系専門学科を置き、生徒が特定の学科に所属しながら一定の範囲内で他の専門学科の科目を選択して学習できる高校である旨、中間案に示したところです。	
		<ul style="list-style-type: none"> ●地域格差のない学校配置を考慮して欲しい。 ●地域格差がすすんでいるが、教育格差はあってはならない。 ●再編により学習の選択肢をなくさないようにして欲しい。 ●全県一学区による都市部への人口集中、郡部からの人口拡散に対する方策について、具体的な方向性を示すべき。 ●通学可能な範囲に様々な高校を配置すべきである。 ●自宅から通学できる高校は最低1校以上必要である。 ●通学時間は1時間以内が良いという県民意識調査結果を踏まえた内容になっているのだろうか。 ●通学条件の悪化により、学校の選択機会が縮小されないよう配慮して欲しい。 ●仙台市と郡部では交通事情が違うので、分けて将来構想を考えるべき。 ●地域でも子育てできるよう高校が必要である。 	学習の選択肢がなくならないよう、通学可能範囲に学習の選択肢を残した再編を行い、地域格差のない学校配置を考慮すべき。	再編に当たっては、県民意識調査では通学許容範囲として大多数が1時間以内としていることや、各地区の交通条件を踏まえ、学校・学科等の選択機会の確保に配慮する必要性を示したところです。	<ul style="list-style-type: none"> ●P12の(1)機会均等の記述であるがひとつの文として120字以上もある。2つの文にすべきである。そして、「学校、学科等の選択機会の確保に配慮していく必要がある」と結んで欲しい。 ●片道1時間30分の通学は、高校生にとってかなりの負担であり、親の経済的負担も考慮し、自転車通学できる範囲に高校を残して欲しい。 ●無理なく通える範囲に進学できるように、地域の高校をどう残すのかを計画の中で明らかにした上で結論を出してください。 ●通学できる範囲に多様な学科を設置することが必要である。 	学習の選択肢がなくならないよう、通学可能範囲に学習の選択肢を残した再編を行い、地域格差のない学校配置を考慮すべき。	再編に当たっては、県民意識調査では通学許容範囲として大多数が1時間以内としていることや、各地区の交通条件を踏まえ、学校・学科等の選択機会の確保に配慮する必要性を示したところです。	
		<ul style="list-style-type: none"> ●生徒数の急激な減少や県の厳しい財政状況等から再編統合は避けられない。 ●生徒数の減少への対応として、統廃合は避けて通れないと思う。 ●活力維持、充実した指導、切磋琢磨などに、一定規模の生徒数にする再編は必要である。 	生徒数の減少の中で、学校の活力維持や充実した指導などのために、一定規模への再編統合は避けて通れない。	生徒数減少の中で活力ある学校とするため一定規模への再編は不可避だと考え、中間案にはその旨示しております。				
		<ul style="list-style-type: none"> ●人づくりがまちづくりの基盤であることを踏まえ、慎重に統廃合を進めて欲しい。 ●学校は地域の文化的施設であり、統廃合の際は地域全体を考慮して進めて欲しい。 ●学校は地域経済の中心的役割もあるので、できるだけ減らさないで欲しい。 ●学校がなくなればコミュニティもなくなる。 ●再編は、市教委や保護者の意見を聞きながら進めて欲しい。 ●再編は、地域と話し合いながら進めて欲しい。 ●再編計画は、地域と原を割って話し合いながら進めて欲しい。 ●中間案には具体的な統廃合が見えないが、再編対象地域と話し合いしながら進めて欲しい。 ●地域の小中学校の統廃合計画と、高校の将来構想の連携を十分とって欲しい。 ●地域の小中学校の統廃合計画と、高校の将来構想の連携を十分とって欲しい。 ●公私間の定員比率は今後も守って欲しい。 	学校は、教育機能だけでなく、当該地域の文化的、経済的機能やコミュニティ維持に重要な役割を持っているので、再編に当たっては地域と話し合いをしながら進めて欲しい。	地域における高校の多様な役割を認識しており、再編に当たっては地域との関わりを十分に踏まえながら進める必要がある旨、記載したところです。	<ul style="list-style-type: none"> ●経済効率優先で地域から高校をなくさないで欲しい。分校でも良い。 ●地域から高校がなくなることが予想される場合、町としてどう行動すべきか。また、経済原理だけで再編すべきでない。 ●仙台中心の高校再編ではなく、地域に支えられている高校をなくさない計画にすべき。 ●地域は高校があることによって経済が活性化する。子どもがいなければ地域の未来はない。 ●少子化の中だからこそ地域に誇りをもち、支え合える人間関係をつくっていく。教育の機会均等から、学校の統廃合はやめるべきであり、地域の教育力や子どもを育てる上でも学校は大切である。 	高校は、地域の活力維持に重要な役割を持っているので、経済原理だけで再編すべきではない。	地域における高校の多様な役割を認識しており、再編に当たっては地域との関わりを十分に踏まえながら進める必要がある旨、記載したところです。	
		<ul style="list-style-type: none"> ●生徒減少は避けられないが、学級減をしないで欲しい。 ●定員割れしても安易に学級減をしないで欲しい。 ●小規模校でも残して欲しい。 ●本校基準を下回っても学校をなくさないで欲しい。 ●分校を認めるなどして地域に高校を残して欲しい。 ●生徒数減少、即統廃合ではなく、小規模校だからこそできることを盛り込んで欲しい。 ●小規模校の在り方について明確に記載すべき。 	定員割れを起こしても学級減をしないで欲しい。	高校教育を受ける生徒が減少しており、それに対応した高校の見直しが必要と考えております。小規模校の対応については、活力ある高校教育を行う上で望ましい学級規模や地域のバランス等を考慮することが必要であるとされており、「本校」の下限を「1学年2学級」としましたが、法律に沿った表現である「収容定員240人」と修正いたします。	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の小規模校を評価し、維持していける将来構想としてほしい。 ●不景気の現在、公立高校の収容定員の削減計画は拙速である。 ●小規模校を存続すべき。 	地域の小規模校を存続させるべき。	高校教育を受ける生徒が減少しており、それに対応した高校の見直しが必要と考えております。小規模校の対応については、活力ある高校教育を行う上で望ましい学級規模や地域のバランス等を考慮することが必要であるとされており、「本校」の下限を「1学年2学級」としましたが、法律に沿った表現である「収容定員240人」と修正いたします。	

		意見聴取会における意見等			パブリックコメントにおける意見等		
		個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	意見等に対する審議会の考え方(案)	個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	意見等に対する審議会の考え方(案)
	3 地区別の県立高校再編の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●県南地域に中高一貫校があっても良いと思う。 ●栗原市の中学生の4割が市外に流出しており、魅力ある学校づくりを期待する。 ●栗原地区では、単独の専門高校の成立が困難であり、総合産業高校が適当である。 ●岩ヶ崎高の実態を考えると、中高一貫校は不安である。 ●登米市では、統廃合はやむを得ない。 ●総合産業高校は賛成であり、他の地域にはない学校ができたと思う。(登米地区) ●学校教育はまず国があり、次に県、そして市町村の順。生徒数が減少すれば、まず市立高校をなくすべき。 ●気仙沼地区の高校は、再編が避けられない。大学進学を目指すタイプ・専門的知識技能を身につける総合産業高校タイプ・教養を身につけるタイプの3校にしてはどうか。 ●交通事情が良くない気仙沼地区の地理的状況を考慮し、選択幅がなくなるような構想を策定して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●県南地域に中高一貫校があっても良いと思う。 ●地区内の中学生が他地区の高校に流出しないよう魅力ある学校づくりを期待する。 ●栗原市の専門高校は総合産業高校が適当である。また、岩ヶ崎高の中高一貫校化は不安である。 ●他地区にはない総合産業高校ができれば良いと思う。 ●生徒数減少に際しては、まず市立高校を廃止すべき。 ●本吉地区の高校は、タイプの異なる3校に再編してはどうか。 ●本吉地区の地理的状況を考慮し、選択幅がなくなるような構想を策定して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●中高一貫校については、現設置校の成果・課題を踏まえた上で検討する必要があると考えます。 ●実施計画策定の中で検討する事項と考えます。 ●実施計画策定の中で検討する事項と考えます。 ●設置者である市教育委員会が検討すべき事項と考えます。 ●地形的な条件を背景とした通学距離・時間などの制約を考慮しながら、他地区との関係を踏まえ「再編を含めて」検討していく旨の表現に文言修正いたします。 			
第5章 将来構想の推進	1 家庭・地域社会への期待	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭の教育力向上は難しく、まず地域コミュニティの教育力向上が重要である。 ●家庭教育の必要性を言うのであれば、幼児期の在り方が重要ということをお説くべきである。 ●キャリア教育の充実に向けて地域社会を巻き込むための支援をすべき。 ●自主性、協調性などは、高校生もスポ少で培わせたい。 ●今後スポーツ少年団など地域の教育力がますます重要視されると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭の教育力向上は難しい。 ●キャリア教育をはじめ、スポーツ少年団等地域の教育力を活用できる仕方を検討すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校教育の充実のためには、家庭教育の充実が重要であると考えております。 ●高校教育の充実に向けて、スポーツ少年団をはじめ、地場企業など、学校と地域の連携促進が必要であり、その旨中間案で示したところです。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高校生のいる家庭に地域や行政が生活習慣についてまで干渉するのは行き過ぎではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高校生のいる家庭に地域や行政が生活習慣についてまで干渉するのは行き過ぎである。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校教育の充実のためには、家庭教育の充実が重要であると考えております。
	2 適正な進行管理	<ul style="list-style-type: none"> ●どのような生徒を育成するのか、数値目標を入れた行動計画にして欲しい。 ●答申で、具体的な再編校名が出されるのか。 ●検証しながら、教育水準のレベルアップを図って欲しい。 ●男女共学化が良かったのか検証して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実施計画では、再編の具体校名を明らかにするとともに、教育改革の数値目標を掲げるなど、具体的なものにして欲しい。 ●男女共学化をはじめ、高校教育改革の取組を検証しながら進めて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●具体的な施策の展開に当たっては、5年間程度の実施計画を策定した上で、進捗状況や成果・課題等の検証を行いながら、その結果を踏まえた対応の必要性を示しております。 ●着実な高校教育改革のためには、現構想を含む取組も含めて、常に各取組の進捗状況を把握しながら検証していくことが重要であると考え、その旨中間案に示したところです。 	<ul style="list-style-type: none"> ●構想の計画期間は3年が適当である。 ●10年という計画期間では大きな変化に対応できなくなる可能性があるため、3年程度にすべき。 ●将来構想の見直し期間が10年では周期が長すぎて教育の変化に対応できない。 ●10年という計画期間では世の中の変化に対応できなくなる可能性があるため、2～3年程度にすべき。 ●10年という計画期間では世の中の変化に対応できなくなる可能性があるため、2～3年程度にすべき。 ●10年という計画期間では世の中の変化に対応できなくなる可能性があるため、2～3年程度にすべき。 ●10年間という計画期間は長過ぎ、見直す機会を設けるべき。 ●適正な進行管理について、新たな将来構想の管理なのか実施計画の管理なのか。また、高校教育に関する進行管理をする組織の在り方について、新将来構想だけを問題にするのか入学者選抜の在り方・学区の在り方・産業教育の在り方など総合的に取り組むのかを明確にすべき。 ●答申には、常に問題点を速やかに検証し、審議し、その結果を教育行政(教育現場を含む)に資するべきことを明記すべき。 ●総合的にみて弊害の方が大きい、効果がない、効果が限定的なものは、元に戻すという判断があってもいい。 ●高校配置図については公共交通網と重ね合わせた図が必要なのではないか。 ●校舎の改築年月日について事実確認と訂正が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●10年という計画期間では世の中の変化に対応できなくなる可能性があるため、2～3年程度にすべき。 ●進行管理を行う対象範囲と、その実施組織を明確にすべき。 ●参考資料を再確認し、追加修正等を行うべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●具体的な施策の展開に当たっては、5年間程度の実施計画を策定した上で、進捗状況や成果・課題等の検証を行いながら、その結果を踏まえた対応の必要性を示しております。 ●進行管理の対象範囲は、実施計画に基づく各高校教育改革の取組である旨、中間案に示しております。また、実施組織・体制については、今後、県教委内で検討されるものと考えています。なお、着実な高校教育改革のためには、現構想を含む取組も含めて、常に各取組の進捗状況を把握しながら検証していくことが重要であると考え、その旨中間案に示したところです。 ●校舎改築年については再確認の上、修正しました。

(2) その他の意見等

		意見聴取会における意見等		パブリックコメントにおける意見等	
		個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨
現在の高校教育改革に関する意見	現在の高校教育改革に対する意見(一学区化)	<ul style="list-style-type: none"> ●全県一学区は、地域のコミュニティ崩壊につながるので今すぐやめるべき。 ●全県一学区は大学進学一辺倒の空気感を醸成する。 ●教育委員会が自信を持って決定した全県一学区に対して、教育委員から全県一学区の質問をするのはおかしい。 ●全県一学区は、地域の再発見もある。 ●全県一学区による影響について触れられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 全県一学区はコミュニティ崩壊や大学進学一辺倒につながる恐れがあるのでやめるべき。 教育委員が全県一学区の質問をするのはおかしい。 全県一学区は地域の再発見もある。 全県一学区の影響について触れられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一学区制を再検討すべき。 ●全県一学区の見直しが必要である。 ●学校配置に当たって、交通の利便性を考慮する必要があるなら、交通の利便性向上を一つの理由として進めている全県一学区を見直すべき。 ●全県一学区の実施凍結や少人数学級の実現、教職員の定数増を要望する。 ●全県一学区と答申案で示されている高校の統廃合が、地域や家庭の教育力の向上と深いところで矛盾している。 ●家庭地域社会への期待に対し、全県一学区制の入試の導入が郡部の高校に対応の困難さを与える。 ●全県一学区を前期の将来構想になかったのに実施し、混乱を招いた。地方の少子化に追い打ちをかける施策であり、大学受験一辺倒にする改革を、なぜ構想外なのに実施したのか。 ●通学区の全県一学区化と、「将来構想」の4項目とはどのような関係にあるのか？ ●一学区化により種々な事態の発生が予想されるが、どのように影響するかについて言及されていない。 ●学区撤廃の影響についての検証・検討なしに新たな構想を立てるのは問題でないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 全県一学区について見直すべき。 一学区の影響について検証し、新構想に言及すべき。
	現在の高校教育改革に対する意見(共学化反対)	<ul style="list-style-type: none"> ●男子校を廃止してはいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> 男子校を廃止してはいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●別学校に通う当事者である学生の意見をもっと尊重すべきである。 ●一律共学化の取組については、当該校の生徒に直接話をして進めるべき。 ●男女別学校の整備により、生徒の多様な個性や特性に対応した教育環境を整備すべき。 ●男女共学化の進め方に問題がある。どのような対策でも問題が生じるなら、共学化すべきではない。 ●仙台市近郊の県立高校では生徒数が多いため共学化を絡めた統合は必要ない。 ●「高校生の興味関心の多様化」に対応した選択の幅を確保するために別学を存続してほしい。 ●共学化の前提として意識調査を行い県民や我々に正しい説明を行うべきであり、一律共学化の廃止または延期を提案する。 ●仙台市近郊の県立高校では生徒数が多いため共学化を絡めた統合は必要ない。 ●仙台市内には生徒数が多いので市内の県立高校を一律共学化する必要がない。 ●共学化は反対である。 ●一律共学化を再検討すべき。 ●一律共学化を推進したことは残念である。 ●仙台地区では、少子化対策としての統合や共学化は必要ない。 ●別学は文化であり、残すべき。 ●現将来構想の取組の意図、特に一律共学化が何をめざしているのか疑問。 ●一律共学化の取組についての反省点を（新構想の中で）県民に公表すべき。 ●一律男女共学化の進め方について、将来構想の中で反省の意を明示すべき。 ●「一律共学化に関しては問題もあった」ということを新将来構想に明記すべき。 ●男女共学化の制度を画一化して生徒の個性を尊重なのか。中学校まで男女共学制度で、高校では男子のみ女子のみとし、これまでと違った経験をさせたほうが、教育的効果がある。 ●男女共学化の制度を画一化して生徒の個性を尊重なのか。中学校まで男女共学制度で、高校では男子のみ女子のみとし、これまでと違った経験をさせたほうが、教育的効果がある。 ●共学校は性のみだれが大きい。 ●男女共学化凍結に係る10万筆にも及ぶ署名が集まり民意が示されたにも拘わらず、見事に無視されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題がある一律男女共学化はやめるべき。

		意見聴取会における意見等		パブリックコメントにおける意見等	
		個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨
現在の高校教育改革に対する意見(共学化賛成)	●男女共学化は、子どもがのびのびして良かった。	男女共学化して良かった。	●男女共学の意義の観点から、共学教育の充実や、そのための施設設備の充実について記載すべき。 ●「男女共学に基づく人権尊重の意識醸成」という項目を追加すべき。 ●第3章2(1)③に、男女共学の意義を盛り込むべき。 ●第3章2(4)に、男女共学教育の充実としての施設設備の充実を図る旨を示すべき。 ●第3章2(1)③に、男女共学の意義を盛り込むべき。 ●第3章2(4)に、男女共学教育の充実としての施設設備の充実を図る旨を示すべき。 ●適正な進行管理において、男女共学の定着の方向性を示すべき。 ●男女共同参画社会を担える人間を育てるという社会の要請を、はっきり書きこむこと。 ●第3章1の(2)人と関わる力の育成の最後、またはどこかに、「共学教育の意義」を盛り込むこと。 ●単独で共学化した旧女子校などで施設・設備面の整備を急ぐべきであり、その旨を施設整備の推進に盛り込んでおくことが必要。 ●「新たな県立高校将来構想」においても、「男女が共に学ぶ」ことについて、第3章1.(2)人と関わる育成の中に盛り込むべき。 ●男女共学化が、全県公立高校に導入され、停滞すること無く、「男女共学化の意義」が、全ての生徒及び県民に受け入れられるように検証してほしい。 ●「人と関わる力」という表現は抽象的なので、「異性と関わる力」とすべき。 ●将来の「職業人」というところは、「将来の職業人・家庭人」とすべき。	新将来構想においても、現構想で示した「男女が共に学ぶ」意義を示すべき。	
	現在の高校教育改革に対する意見(共学化の検証)	●一律共学化の推進に問題点があったということ、今後問題について検証していくことを構想に盛り込むべき。 ●一律共学化達成後の検証について新将来構想に明記すべき。 ●一律共学化の推進に問題点があったということ、今後問題について検証していくことを構想に盛り込むべき。 ●一律共学化の推進に関して、今後問題について検証していくことを新構想でも引き継ぐべき。 ●一律共学化の推進に問題点があったということ、今後問題について検証していくことを構想に盛り込むべき。 ●一律共学化の推進に問題点があったということ、今後問題について検証していくことを構想に盛り込むべき。 ●一律共学化の推進に問題点があったということ、今後問題について検証していくことを構想に盛り込むべき。 ●別学の意義及び、今後問題について検証していくことを構想に盛り込むべき。 ●一律共学化については問題があったこと、今後一律共学化の検証を行っていくことを、新構想に明記するとともに、「現構想を引き継ぐもの」ではなく「現構想に代わるもの」と、表現を改めるべき。 ●共学化校における共学化前後の進学率の比較、生徒達の抱える問題点等の詳細な調査を多年度にわたり行い公表すべき。 ●新将来構想に移行する前に、一律共学化を検証願う。 ●教育委員会が「問題あり」とした一律共学化について検証すべき。 ●共学化の検証が必要である。 ●一律男女共学化を含め、毎年PDCAサイクルによる検証を行うべき。 ●共学化や統合高校の実態について速やかに検証し、問題点の改善を遅滞なく実施すべき。 ●高等学校の定員の男女比率とかは問題にされていないが、この現状をどのように考えるのかも最終答申までに考えてほしい。 ●適正な進行管理を通じて、男女共学化教育の定着と充実をして欲しい。	●一律共学化の取組について、検証していくことを新構想に明記すべき。		
	現在の高校教育改革に対する意見(その他)	●学校の適正規模論は、学校を潰していくための理論ではない。 ●適正規模の観点からの再編の必要性については疑問である。 ●鷺沢工業の再編は、一迫商業高との統合という選択肢もあったのではないかと。 ●地方の高校は、教員配置も施設設備も不十分であり、地方切り捨ての状況である。	●学校の適正規模論は、学校をつぶすための理論である。 ●鷺沢高校の再編はもっと選択肢があった。 ●地方高校は、ソフト・ハードとも不十分な状況である。		

		意見聴取会における意見等		パブリックコメントにおける意見等	
		個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨
構想策定手法に関する意見	新構想策定手法に対する意見(意見聴取会・パブコメのあり方)	<ul style="list-style-type: none"> ●意見聴取会の発表者の旅費はどこから支出されているのか。 ●意見発表者に教員がいないが、現場の声を聞いて欲しい。 ●中間案の段階で意見聴取会を開催する権限はどこにあるのか。 ●意見聴取会が7回では少ない。またパブコメ募集期間が1ヶ月では不満である。 ●意見聴取会の傍聴者にも時間制限を設けなくて発言する機会を保障すべきである。 ●意見聴取会で、子どもたちや保護者の意見を聞こうとしていないのではないか。 ●広く県民の声を聞くと言いつつ、聞くシステムが後退している。 ●子どもたちにも意見を求める機会をつくる必要があるのではないか。 ●PTAとしての意見をもらいたいのなら、PTA連合会を通じて意見を求めるべき。 ●議論を巻き起こす工夫をして欲しい。 ●パブコメ募集期間が短いのではないか。 ●中間案をゆっくり検討する期間を設けて欲しい。 ●県民意識調査の設問には、中高一貫など専門的な質問があり、分かりづらかった。 	意見聴取会やパブコメ等のやり方に問題がある。	<ul style="list-style-type: none"> ●新構想策定において、今後、県民の意見を求める方針を出して欲しい。 ●条例に規定のない意見聴取会の実施はおかしい。 ●意見聴取会ではなく公聴会を開催して欲しい。 ●公聴会を開催して将来構想を策定して欲しい。 ●意見聴取会の周知が不徹底だったと思う。 ●都合のよい民意を集めないで、住民投票の仕組みが望まれる。 ●新構想の策定は、多方面の理解を得ながら進めるべき。 ●最終答申前に公聴会を開催してほしい。 ●県民・保護者等ともっと意見交換して欲しい。 ●用紙にある但し書きは必要なのか。「趣旨が不明確」とか「損害する恐れ」は誰が判断するかと言えば主催者になるわけだから、自由にアンケートを取ってもらいたい。 ●将来構想が、県民の中で議論を巻き起こす工夫をしてください。特に、パブリックコメントの周知と期間の延長を考えて欲しい。 ●単位制、総合学科・・・わからない語句も多く、高校とはこういうものみたいな、具体的な説明をする場または資料があればもっとよかった。 ●広く県民の意見を聞くと言いつつ、教育委員会の人選した人からしか意見を聞かず、フリーの立場の人の意見はパブリックコメントでしか集めないでいて、「広く県民の意見を聞く」とは言いがたい。事務方の責任として指摘しておきたい。 ●この中間案に対しては高校現場の先生方の検討が行われ、それを吸い上げる用意はあるのか。 ●議論が不十分でありもっと多くの県民との議論が必要である。 ●高校教育改革については、現役高校生を対象に調査するとともに、高校生と協議していくべき。 ●高校生や中学生の声を反映できるよう審議会で子どもたちの声を聴取する機会を設定してほしい。 	意見聴取会やパブコメ等のやり方に問題がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ●将来構想と入学者選抜のあり方をバラバラに進めているのではないか。 ●入選審で審議している入試のあり方と一緒に議論できるようなまとめ方をして欲しい。 ●現構想が終了していないのに、新構想の策定に着手するのはおかしい。 ●中学校側の意見も加えながら、中学生の学力や職業観を踏まえた新しい形態の高校を実現して欲しい。 	入学者選抜のあり方と歩調を合わせて将来構想を検討すべき。	<ul style="list-style-type: none"> ●「将来構想」と入学者選抜審議会や産業教育審議会との関係、私学との関係などとの「位置づけ」を明確にあらわすべき。 ●宮城の教育全体をリンクさせて議論すべき。 ●現構想における高校教育改革について、緻密な分析をお願いする。 ●本県教育の歴史や実績等に触れるべき。 ●学校現場を直接見てはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 関連審議会との関係を明確にすべき。 教育全体をリンクさせて議論すべき。 現構想における取組を緻密に分析されたい。 歴史や実績に触れるべき。 学校現場を見てはどうか。
		<ul style="list-style-type: none"> ●中間案には概ね賛成である。 ●中間案の書きぶりとしては、こんなところだと思う。 ●郡部の子ども達にとっても良い構想であることを期待する。 ●若年層の目的意識の希薄化、家庭の教育力の低下は、その通り。 ●正規雇用より、自分に合った仕事を見つけるまで非正規雇用でも構わないという保護者が出現しており驚いた。 ●家庭の教育力低下について、まったく同感である。 ●個人情報の保護、プライバシー侵害への対応が壁なり、家庭や地域の教育力低下に拍車をかけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間案としては妥当である。 郡部の子ども達のこと考えた構想になることを期待する。 若年層の目的意識の希薄化、家庭の教育力の低下は同感である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域性や民間教育力に目を向けていることを評価する。 ●「地域のニーズに応える高校づくりの推進」の明示は高く評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に目を向けていることは高く評価する。
		<ul style="list-style-type: none"> ●個人情報に関する意見 		<ul style="list-style-type: none"> ●施策の実施後の効果を数値化し、正確な判断材料を全県民に明示し、PTAや地域代表、専門家を交えた継続的な検証を望む。 ●前将来構想（平成13年3月）に対する検証が皆無である。 ●早期に検証体制を公表して欲しい。 ●「進捗状況や成果・課題等の検証を行う」旨の認識を高く評価する。 ●将来構想の検証に当たって第三者委員会を持つ場合、人選を公募して欲しい。 ●現構想について批判的検証がなされなければ、次期構想はうわべだけのものとなる。 	客観的、公正な検証を期待する。

		意見聴取会における意見等		パブリックコメントにおける意見等	
		個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨
教育一般	教育に対する持論・認識	<ul style="list-style-type: none"> ●地域を愛するには、地元の高校に通うべきである。 ●教育は、家庭のあり方から考えるべき。 ●治安悪化の原因は、教育者である。 ●高校教育に直結しないと思うが、ゆとり教育の弊害が出てきているのではないか。 ●ダメな教育の原因は、ゆとり教育と個性教育である。 ●将来の職業に夢の持てる教育制度の確立が必要である。 ●子供たちの考える能力がなくなっている。 ●現在の高校教育環境や内容と、自分が受けてきた高校教育の違いを理解できない保護者が多い。 ●わずか10年で社会情勢が変化することを、大人は理解しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地元の高校に通うべきである。 ●家庭のあり方から考えるべき。 ●治安悪化の原因は、教育者である。 ●ゆとり教育の弊害が出てきている。 ●ダメな教育の原因は、ゆとり教育と個性教育である。 ●ダメな教育の原因は、ゆとり教育と個性教育である。 ●子供たちの考える能力がなくなっている。 ●現在の高校教育環境や内容を理解できない保護者が多い。 ●わずか10年で社会情勢が変化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●理数教育を充実させる必要は全くない。 ●そもそも高校教育とは何か。 ●個性教育は、茶髪、ピアスや非行犯罪を増加させただけ。 ●県内にはたくさん的高校があり、よいところもそうでないところも誰もが周知でき、自分の行きたい学校を見いだすことができるればいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●理数教育の充実が必要ない。 ●高校教育とは何か。 ●個性教育は失敗である。 ●自分の行きたい学校を見つけることができれば良い。
	要望事項(教員配置関係)	<ul style="list-style-type: none"> ●進学校勤務の教員は異動先も進学校が多く、学校差別を感じるので改善して欲しい。 ●地元出身の教員配置を希望する。 ●教員の異動期間は長い方が良い。 ●中長期の展望をもって学校経営ができるよう、校長の異動期間を長くして欲しい。 ●学校のリスクマネジメントの転から、学校現場に外部人材を配置することも必要である。 ●今の定時制高校は、家庭問題や不登校など多様な生徒が、着実に学べる学校である。 ●先生と密に話しをするのは、全日制高校では難しいが、定時制高校では可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●効果的かつ効率的な教育が実践できるような教員配置を考慮すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●校長のリーダーシップ発揮のためには、2～3年で人事異動する現在のシステムでは難しい。 ●ある高校及び職員に対する不満がある。 ●財政的な面を理由としないならば、現在の教育現場の厳しい状況から職員定数を減らさないで欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●校長のリーダーシップ発揮のためには異動期間を長くする必要がある。 ●ある高校・教員に不満がある。 ●職員定数を減らさないで欲しい。
	要望事項(公教育に係る財政等支援関係)	<ul style="list-style-type: none"> ●授業料減免の周知徹底等により、当たり前の希望がかなえられる全国に誇れる県になってほしい。 ●教育費を県に負担してもらいたい。 ●高校教育を無償にできないだろうか。 ●経済的に就学困難な生徒に対して、県教委の支援のあり方の議論が必要である。 ●通学困難な生徒への支援をしないと機会均等にはならない。 ●交通が不便などところには、県が支援するなどの対応をして欲しい。 ●通学の利便性に配慮し、住民バスの運行など行政への働きかけが必要である。 ●通学の足の確保を考えて欲しい。 ●交通網の確保を考慮して欲しい。 ●交通の便から、経済的に余裕のある人しか高校に通えなくなる恐れがある。 ●高校でしっかりした人材育成ができるよう、財政支援を考えて欲しい。 ●教育の機会均等に向けて、教育予算を増やすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●さらなる授業料減免又は無償化等により、高校教育に係る費用負担の減少を図るべき。 ●通学の足の確保を考えるべき。 ●教育予算を増やすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「家庭や地域の教育力の低下」を深く分析し、援助の手を差し伸べることが必要不可欠である。 ●経済格差が広がり、宮城交通が今後路線を廃止するらしい。経済的にゆとりのある家庭しか高校にいけなくなる。地域に支えられる学校が必要で、地域の学校で教育を受けたものは大人になって地域で活動します。 ●経済的に恵まれない子どもの進学保障をどうするかが課題である。中間案にこの視点が欠けていて大きな欠陥である。 ●私立も公立並みの学費で進学できる整備と交通機関への要請・整備も一緒に進めてこそ再編、学級減が成り立つ。少子化だから学級減再編は片手落ちである。進学率が高い時代において、地元所高校がない、経済力で進学できないという現状にメスを入れる答申でなければならない。 ●県立高の統廃合も含めて県で家庭への負担、子ども間の格差をなくして、公立に一人でも多く入れるようにしていただきたい。 ●授業料の無償化等により、希望する生徒全てが高校教育を受ける体制を考える必要がある。 ●県独自の奨学金制度・交通費補助制度など経済的に学業を続けられない生徒への支援の拡充が必要である。 ●経済的理由で、退学せざるがえない生徒に対して援助・貸し付けなどで、学ぶ場を提供することを考慮して欲しい。 ●すべての子どもたちに高校進学を保障し、定員割れ的高校では不合格者を出さないで欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭・地域の教育力向上のため、援助が不可欠である。 ●経済的理由で進学できないということのないよう対策を講ずるべき。

	意見聴取会における意見等		パブリックコメントにおける意見等	
	個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨	個々の意見等の要旨	左記の意見等の主旨
要望事項(教育システム・環境等)	<ul style="list-style-type: none"> ●私立高校を合格しても、公立高校の二次募集に出願できるようにして欲しい。 ●中学校卒業時に将来を考えるのは無理。高校入学後、方向修正できる仕組みが欲しい。 ●高校途中で転校できるシステムがあれば、生徒の進路実現のチャンスが拡大できるのではないか。 ●専門高校から普通高校への転校・転学科できるよう柔軟な対応ができないか。 ●実業高校から普通科に簡単に転校できるシステムがあると良い。 ●高校の推薦入試の定員枠が広すぎる。 ●推薦入試制度は単なる生徒数確保になっている。安易な道を用意するのではなく、しっかりと教育する制度を確立すべき。 ●誰でも入学できるように高校入学のハードルを下げて欲しい。 ●定員割れの学校では不合格者を出さずに、やる気のある子どもの進学の機会を奪わないで欲しい。 ●子どもの良いところを見る教育者になって欲しい。 ●地域拠点校の進学校としての復活を期待する。 	<p>高校入試、転学科等のあり方について</p> <p>教育者、学校への要望について</p>		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●大卒と高卒ではレベルに差があり、企業側は大卒採用を優先する傾向がある。 ●栗農は、生徒数の減少と女子生徒の比率が高まっており、将来は女子が多くなると思う。 ●地元の高校に親も子どもたちも行きたいと思っているが、4割の生徒が市外に流出している。(栗原地区) ●栗原の中学生には、基礎基本ができていない人が多い。 ●登米地区の高卒者の市内就職希望は、わずか27%しかない。 ●気仙沼地区では、高校卒業後、職場がないため、人口減につながっている。 ●若者が定住するまちづくりの一環として、高校における実践教育が必要である。 ●農業ができる社会環境を作る必要がある。 	<p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●例えば「高校教育に関する県民意識調査」結果における不都合なデータは削除・改ざんしていると推定され、「概ね評価された」とは言えない。 ●中高一貫校には反対で、小学生に受験勉強をさせ、中学生に受験勉強をさせないというのはおかしい。 ●少子化による高校の再編が主テーマとなっているが、安易な再編とならぬようお願いしたい。人をつくるのが学校教育の基本で経済性だけが一人歩きしないようにして欲しい。 ●水産高校の生徒が水産関連企業などに進む数はひとつだけだと思ふ。であるならば普通校などと総合的に統合して白紙から見直すことも必要ではないか。 ●隣接3県合同の実習船の建造と運用(管理を含む)も検討すべきではないか。運用の要員も民間委託するなど検討すべき。 ●学校を締め付けなくて欲しい。 ●学校評価制度がどのように機能しているのかを、審議会の委員に十分説明すべきであるし、県民にも分かりやすく説明する必要がある。 ●高校教育改革の進め方に間違いがあったら訂正することが必要な旨、将来構想に明示すべき。 ●将来構想のあやまちに気づいたら改める旨、明示すべき。 ●大学進学率を改善するのであれば、平均賃金が低く、大学が少ない実態を改善する方が効果的である。 ●大学進学のための普通科と就職のための普通科と区別するべきではない。 	<p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p>